

20074

心臓カテーテル室における記録の見直しを試みて

【はじめに】当院は循環器専門病院であり、年間約1700件のカテーテルを行っている。以前よりカテーテル室には独自の記録媒体があり、2010年に記録を電子化するに伴い、電子カルテと部門システムに移行した。カテ室看護師は事前に担当患者の情報収集と前訪問を行っているが、繰り返しカテーテルを受ける患者が多いなかでその都度情報を取り直しているのが現状である。カテーテルスタッフ間で効果的に情報を共有するための一方法として記録の見直しを行った。【経過】看護情報のデータベース化を図るために、部門システムの中に既存するデータベースに追加することにした。カテーテル検査技師が入力している項目のため看護師では入力できなかったができるように設定し、その項目の中にある備考欄に共有したい看護情報を入力した。その情報は患者の治療部位や使用デバイスなどのデータと共に一覧することが可能となった。【結果】スタッフが情報を共有することによって同じ認識でカテーテルに携わることにより、より安全な医療、看護を提供できるようになった。情報が一覧できるようになり、業務の効率化につながった。【結語】より安全な医療を提供するためには患者情報のデータベース化が有効であった。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号